

第3回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議意見交流の視点整理（案）

意見交換（第3回検討会議）

- (1) 望ましい学習・生活集団規模について
- (2) 望ましい指導体制について

今後の考え方

- 1 **子どもの学びの質を確保すること（子どもにとって何が大事か）**
… どういう教育を行いたいのか、どういう子どもを育てたいかという価値を重視
譲れるところ、譲れないところはどこかを精査
子どもにとって望ましい集団規模を最優先 等
- 2 **子どもの人数減少という課題は、どの地域も同じ**
… 市全域を俯瞰し、将来を展望した答申
地元地区という観点から離れ、教育的ニーズや理想からの検討が大切 等

教育効果

- 1 **学級規模（人数）を減らすだけでは、すべての教育効果は上がらない**
… 学級規模に応じた指導の工夫・改善に努めることが重要
自然減による少人数と、意図的・政策的少人数は異なるもの
学校・学級規模と教育効果の相関に係る研究は多数（判断は多様）
- 2 **極端に子どもの人数が減少すると、デメリットが拡大する**
… 「子どもの人数減」→「学級数減」→「教員数減」→デメリット拡大
極端に子どもの人数が減少することのデメリット・問題点に踏み込むこと

学級・学校規模

- 1 **教科担任制の効果的推進には、学年2学級以上の規模や教員数確保が必要**
… 「教科の専門性発揮」、「教材研究に係る負担軽減」、「指導や評価に当たる教員数確保」、
「教員の孤立・抱え込み防止」、「教員の協働意識醸成」等
- 2 **1学級15人から25人程度（20人前後）で、学年複数学級**
… 国において、小学校全学年35人学級導入（2021年度より段階的に導入）
兵庫県は少人数指導システム導入済、小4まで35人学級導入済
- 3 **教職員の負担が偏ってしまうような学校規模は、適正ではない**
… 余裕をもって、職務に係る研鑽が積める指導体制が必要（教職員の質の向上）
教職員及び保護者の負担軽減
新しい「学校の在り方」・「担う役割」の構築 等